

# 原龍三郎文書

請求記号	表題	作成年代	作成者	受取	形態(数量)	概要	備考	
I 1979年12月12日寄贈(非水溶液化学研究所)								
I	1	[草花写生帳]	昭和14～15年	原龍三郎		2冊(各47枚、表紙含む)	原の手によるものと思われる毛筆の日録。内容の多くは植物の名前の列挙。諸所に墨画や短歌あり。表紙に東北大学記念資料の印。2冊目の題箋「喜神」	池端有便堂製
I	2	[画集]古書禽獸抄	昭和11年	中野楚溪		1組(6冊)	禽獸の絵をまとめた画集。全6冊からなる。第一 小禽篇/第二 水禽水魚篇/第三 尾長及鷄篇/第四 鷺鶴篇/第六 獸類編	
II 1994年7月25日寄贈(反応化学研究所)								
II	1	[修了証書]	大正2年7月10日	東京帝国大学工科大学長 渡辺渡/東京帝国大学総長 山川健次郎	原龍三郎	1枚	東京帝国大学工科大学応用化学科の修了証書。	
II	2	[学位記]	大正14年6月24日	東北帝国大学	原龍三郎	1枚(筒入)	原の工学博士号取得の際の学位記。	
II	3	[勲四等瑞宝章勲記]	昭和3年3月30日	賞勳局総裁 天岡直嘉/賞勳局書記官 伊出衡	原龍三郎	1枚(筒入)	原に勲四等および瑞宝章を授与する旨を記す。	
II	4	大礼記念章之証	昭和3年11月16日	賞勳局総裁 天岡直嘉/賞勳局書記官 伊出衡	原龍三郎	1枚+注意書1枚	原に大礼記念章を授与する旨を記す。注意書きには証書の文字の一部が閑院宮載仁親王の直筆であることが書かれている。	「各種賞状」と書かれた筒入りで「紀元二千六百年祝典記念章之証」と共に保存。
II	5	[勲三等瑞宝章勲記]	昭和7年5月14日	賞勳局総裁 下條康麿/賞勳局書記官	原龍三郎	1枚(筒入)	原に勲三等および瑞宝章を授与する旨を記す。	

請求記号		表題	作成年代	作成者	受取	形態(数量)	概要	備考
Ⅱ	6	紀元二千六百年祝典 記念章之証	昭和15年8月15日	賞勳局総裁 下條康麿/賞 勳局書記官 村田千穂	原龍三郎	1枚	原に紀元二千六百年祝典記念章を授与 する旨を記す。	「各種賞状」と 書かれた筒入 りで「大礼記念 章之証」と共に 保存。
Ⅱ	7	日本化学会名誉会員 証	昭和39年4月3日	日本化学会会 長 内田修一	原龍三郎	1枚(箱入)	原に日本化学会名誉会員に推薦する旨 を記す。	
Ⅲ 2000年以降寄贈資料(旧反応化学研究所)								
1 論文(報告)原稿・論文抜刷								
Ⅲ	1	1 [報告原稿]海水中ノ 硫酸石灰(集報第一 報)	大正14年2月3日	原龍三郎か		3枚綴	海水中の硫酸石灰に関する実験の論 文。同月5日の無機電化雑誌会での報告 のために作成されたもの。	
Ⅲ	1	2 [報告原稿]大正十四 年五月 職員雑誌会 海水中ノ硫酸石灰(集 報第二報)	大正14年5月	原龍三郎か		18枚綴+方眼 紙(グラフ)1枚	第一報の続編。同月4日の無機電化雑誌 会(職員雑誌会)での報告のために作成さ れたもの。	
Ⅲ	1	3 [報告原稿]本邦曹達 灰工業に関する私見 一二	昭和2年12月15日	原龍三郎か		4枚綴	一般雑誌会での、日本のソーダ工業の改 良についての報告のために作成されたメ モ。	
Ⅲ	1	4 [論文原稿]海水中の 硫酸石灰に就いて	昭和8年	鳥海達郎/桑 原利秀/原龍		計29枚(4束に 分割)	論文の原稿。	
Ⅲ	1	5 [論文原稿]海水罐石 に就て	昭和17年	原龍三郎		17枚綴	近藤記念海事財団・文部省・旭硝子株式 会社の研究費の援助を受けて書かれた 原の論文の自筆原稿。 諸言/(1)海水罐石に関する文献/(2)海水 罐石と硫酸石灰/(3)鹹水蒸気圧の測定と 硫酸石灰の転移点の算出	旭化学工業奨 励会の原稿用 紙使用
Ⅲ	1	6 [論文原稿]On the chemistry of liquid ammonia solutions of certain inorganic salt and its applications for the industrial chemistry	1948(昭和23)年12 月14日	Ryosaburo Hara(原龍三 郎)		44枚綴	原による英文の論文原稿。『Japan Science Review』に掲載されたものか。1 ページ目に「病氣発熱中非水研究所有志 ノ援助ニヨリ執筆」の鉛筆書きあり。	

請求記号			表題	作成年代	作成者	受取	形態(数量)	概要	備考
Ⅲ	1	7	[論文抜刷]遊離窒素を用ふる青化物の製造法に就て	大正8年	原龍三郎/村田寛次		4部(同一物、16ページ)	『工業化学雑誌』(巻号不明)に掲載された論文の抜刷。	1部は「原先生業績関係」のボックスフォルダ(以下「A」)3部は「原先生関係重複資料」の包み(以下「B」)に保存されていた。
Ⅲ	1	8	[論文抜刷]THE PRESSURE OF OXYGEN IN EQUILIBRIUM WITH SILVER OXIDE	1922(大正11)年	G.KEYES/H.H.ARA(原龍三郎)		4部(同一物、8ページ)	『PUBLICATIONS OF THE Massachusetts Institute of Technology』139号に掲載された論文の抜刷。H.HARAはR.HARAの誤り。	1部は「A」、3部は「B」に保存。
Ⅲ	1	9	[論文抜刷]The Saturated Vapor Pressure of Hydrocyanic Acid	1924(大正13)年	Ryosaburo Hara(原龍三郎)/Heima Shinozaki		1部(8ページ)	『Technology eports of the Tohoku Imperial University』第IV巻3号に掲載された論文の抜刷。	元は「A」に保存。
Ⅲ	1	10	[論文抜刷]2~3鹽類の液態アムونياへの溶解度に就て(第1報)食鹽の溶解度及其飽和溶液の蒸気壓	昭和8年	阿部末吉/原龍三郎		1部(12ページ)	『工業化学雑誌』第428号に掲載された論文の抜刷。	元は「A」に保存。
Ⅲ	1	11	[論文抜刷]硫酸石灰の水並に濃縮海水中における転移に就て/ [論文原稿]On the Transition Point of Calcium Sulphate in Water and Concentrated Sea Water	昭和9年	鳥海達郎/原龍三郎		1部(10ページ)+15枚綴	『日本化学会雑誌』第55号に掲載された論文の抜刷。および同論文の英語原稿。ホチキス止めでまとめてられていた。	
Ⅲ	1	12	[論文抜刷]カーバミン酸ナトリウムの熱分解並に生成熱に就て	昭和9年	阿部末吉/原龍三郎		1部(8ページ)	『工業化学雑誌』第441号に掲載された論文の抜刷。表紙に「昭和十年一月提出ノ申請書ニ添付」と記載あり。	元は「A」に保存。

請求記号			表題	作成年代	作成者	受取	形態(数量)	概要	備考
Ⅲ	1	13	[論文抜刷]On the Calcium Sulphate in Sea Water of Various Concentrations at 0°-200°C.	1934(昭和9)年	R.Hara(原龍三郎)/Y.Tanaka/K.nakamura		1部(24ページ)	『Technology eports of the Tohoku Imperial University』第X I 巻2号に掲載された論文の抜刷。	元は「A」に保存。
Ⅲ	1	14	[論文抜刷]加圧下に於けるナトリウムシアナミド及青化ナトリウムの合成に就て(第1報) ナトリウムシアナミドの合成	昭和9年	櫻澤貫平/半田正雄/原龍三郎		1部(10ページ)	『工業化学雑誌』第441号に掲載された論文の抜刷。	元は「A」に保存。
Ⅲ	1	15	[論文抜刷]2~3鹽類の液態アンモニアへの溶解度に就て(第2報) 低温度に於ける鹽化ナトリウムの溶解度	昭和10年	阿部末吉/重富静雄/原龍三郎		1部(10ページ)	『工業化学雑誌』第446号に掲載された論文の抜刷。	元は「A」に保存。
Ⅲ	1	16	[論文抜刷か]2~3鹽類の液態アムモニアへの溶解度に就て(第2報) 低温度に於ける鹽化ナトリウムの溶解度	昭和10年	阿部末吉/重富静雄/原龍三郎		1部(14ページ)	「[論文抜刷]2~3鹽類の液態アンモニアへの溶解度に就て(第2報) 低温度に於ける鹽化ナトリウムの溶解度」と細部に違いはあるものの、文面はほぼ同じ。I-17論文抜刷に挿む。	元は「A」に保存。
Ⅲ	1	17	[論文抜刷]On the Chemistry of Liquid Ammonia Solution of Certain Inorganic Salts and its Applications for Industrial	1949(昭和24)年か	Ryosaburo Hara(原龍三郎)		2部(同一物、14ページ)	『Japan Science Review』に掲載されたと思しき原の論文の抜刷。諸所に朱筆による訂正あり。	1部は「A」、1部は「B」に保存。
Ⅲ	1	18	[論文抜刷]On the Chemistry of Liquid Ammonia Solution of Certain Inorganic Salts and its Applications for Industrial	昭和26年	Ryosaburo Hara(原龍三郎)		2部(同一物、18ページ)	『東北大学非水溶液化学研究所報告』第1巻第2号に掲載された原の論文の抜刷。『Japan Science Review』からの転載。	1部は「A」、1部は「B」に保存。
Ⅲ	1	19	[論文抜刷]和紙製造用のネリに就て		原龍三郎		5部(同一物、8ページ)	原の論文の抜刷。	1部は「A」、4部は「B」に保存。

請求記号			表題	作成年代	作成者	受取	形態(数量)	概要	備考
Ⅲ	2	1	〔原稿〕書評 化学辞典	昭和29年 12月22日	原龍三郎		5枚綴	『化学と工業』掲載のために書かれた、同年刊行された『化学辞典』の書評の原稿。	元は「原先生メモ関係」のボックスフォルダ(以下「C」)に保存。
Ⅲ	2	2	〔原稿(メモ)〕退任辞	昭和30年4月4日	原龍三郎		4枚綴	日本化学会会長を辞任した原の総会における挨拶のために作成されたメモか。話す項目を箇条書で記載。	元は「C」に保存。
Ⅲ	2	3	〔原稿〕本邦化学文献の分散と日本化学会	昭和30年4月11日	原龍三郎		24枚綴	日本化学会発刊の雑誌『化学と工業』掲載のために、同会前会長であった原の総会における挨拶の大要をまとめたもの。	元は「C」に保存。
Ⅲ	2	4	〔原稿〕四〇周年	昭和33年9月20日	原龍三郎		4枚綴	教室の創立40周年の際に、その感嘆や思い出などを綴った原稿。何かの刊行物に掲載されたものか。	元は「C」に保存。
Ⅲ	2	5	〔原稿〕故亀山直人会員追悼の辞	(昭和38年)	原龍三郎		13枚綴+1枚	日本学士院会員の東京大学名誉教授(工学博士)の亀山直人に対する追悼の辞。昭和38年5月11日の学士院総会の際のもの。後半には後から追加されたと思しき亀山の来歴一覧あり。来歴一覧を作成するにあたって参考にされたと思しき亀山敏子夫人作成のメモを途中に挿む。	元は「C」に保存。
Ⅲ	2	6	〔記事抜刷〕研究結果の行くえ	1955(昭和30)年	原龍三郎		10部(同一物)	『化学工学』第19巻第4号に掲載された原の文章の抜刷。日本における工学の問題点を論じる。	1部は「A」、9部は「B」に保存。
Ⅲ	2	7	〔記事抜刷〕内助のつとめ		原龍三郎		4部(同一物)	『化学と工業』に掲載された原の文章の抜刷。日本における工学の問題点を論じる。	1部は「A」、3部は「B」に保存。
Ⅲ	2	8	〔記事抜刷〕文献寓話		原龍三郎		13部(同一物)	雑誌に掲載されたと思われる原の文章の抜刷。日本における工学の問題点を論じる。	1部は「A」、12部は「B」に保存。
3 論文原稿・測定記録・論文抜刷 (原以外の人物によるもの)									
Ⅲ	3	1	〔論文原稿〕濃縮海水硫酸石灰溶解度	昭和3年5月	田中義高		1冊(46枚、表紙含む)	田中義高による論文(レポート)。	
Ⅲ	3	2	〔論文原稿(コピー)〕NaCl-NH <sub>4</sub> Cl-NH <sub>3</sub> の研究	昭和12年 11月10日	渡邊恭三		35枚綴	渡邊恭三による論文の電子コピー。表紙に「JUN 13 1988」「原本渡邊さんに発送」とあり。	

請求記号			表題	作成年代	作成者	受取	形態(数量)	概要	備考
Ⅲ	3	3	[論文原稿]海水罐石に就いて	昭和14年1月27日	原研究室 松野泰夫		33枚綴	原研究室の松野泰夫による論文。表紙に原の印あり。 緒論/罐石に就いて/硫酸石灰/炭酸石灰/研究方法/使用海水及び濃縮海水/罐石の分析及び濃縮海水の濃度決定/研究実験の主要装置/Thermo coupleの検度/実験操作/豫備実験/低温部の実験/高温部の実験/実験結果/結論	
Ⅲ	3	4	[論文原稿]アモニア曹達法の反応に於けるカーバミン酸イオンの生成に就て 第4部 工場に於ける実証	昭和14年4月	九鬼利憲		17枚綴	旭硝子牧山工場での測定実験に関する論文の一部分。表紙に原の印あり。また、朱筆で「此部公表ニ就テ旭硝子株式会社ノ同意ヲ得難ク秘密トス」とある。	
Ⅲ	3	5	[論文原稿]NaCNO/熔融点ニ就テ 第1報	昭和16年4月10日	東北帝国大学工学部科学工学科 熊尾信一		1冊(62枚、表紙含む)	原研究室の熊尾信一による論文。 緒論/文献/実験/第一章 分析法ニ就イテ/第二章 純メタノールニ依ルNaCNO/精製ニ就イテ/第三章 NaCNO/熔融点ノ測定ニ就イテ/第四章 NaCNOiNa2CO3/融点図ニ就テ	
Ⅲ	3	6	[測定記録]液態アンモニア溶液比重測定記録	昭和11~12年	東北帝大工学部金属工学科 菊池三郎		30枚綴×2綴	塩化ナトリウムと塩化アンモニウム混合の液体アンモニア溶液の比重を記録したもの。	
Ⅲ	3	7	[論文抜刷] Preparation of Pure Calcium Cyanamide	1924(大正13)年	Kumazo Yasuda		2部(同一物、6ページ)	『Technology Repots of the Tohoku Imperial University』4巻3号に掲載された論文の抜刷。	元は「B」に保存。
Ⅲ	3	8	[論文抜刷]液安ソーダ法について	昭和27年	旭硝子研究所 植村四郎		2部(同一物、14ページ)+正誤表1枚	『東北大学非水溶液化学研究所報告』第2巻第1号に掲載された論文の抜刷。2部のうち1部に「原先生 植村」の署名あり。	元は「B」に保存。
Ⅲ	3	9	[論文抜刷]無機化学工業溶媒として液体アンモニアの利用		旭硝子株式会社 植村四郎		4枚綴+正誤表1枚	『高圧瓦斯協会誌』第16巻第2号に掲載された論文の抜刷。「原先生 植村」の署名あり。	元は「B」に保存。
4 証書・叙勲・表彰関係									
Ⅲ	4	1	日本学士委員会候補者推薦書	昭和28年6月			2部	原を日本学士院会員に推薦する書類。推薦者および紹介者の名を記す欄が空欄のまま。原の履歴書とともに綴られている。	1部は「A」、1部(「東北大学教授」など書入)は「B」に保存。



請求記号			表題	作成年代	作成者	受取	形態(数量)	概要	備考
Ⅲ	4	2	学術上の業績 被推薦者 原龍三郎	昭和28年か			3部(同一物、6枚綴)	原を日本学士院会員に推薦する際に作成されたものか。表紙に鉛筆書きで「控」とある。	1部(表紙に書入「控」)は「A」、他は「B」に保存。
Ⅲ	4	3-1	論文集及解説 —原龍三郎—	昭和28年か			25枚綴	原の論文を列挙し、解説を加えたもの。鉛筆による校訂の書き込みあり。日本学士院会員推薦の際のものか。	元は「A」に保存。
Ⅲ	4	3-2	論文集及解説 被推薦者 原龍三郎	昭和28年か			28枚綴	原の論文を列挙し、解説を加えたもの。色鉛筆による校訂の書き込みあり。日本学士院会員推薦の際のものか。	元は「A」に保存。
Ⅲ	4	3-3	[論文一覧]	昭和28年か			21枚綴	原の論文を列挙したもの。「論文及解説」の一部分か。	元は「A」に保存。
Ⅲ	4	4	[選定状]	昭和32年3月12日	日本学士院	原龍三郎	1枚	原を日本学士院会員に選定する旨を記したものの。	
Ⅲ	4	5+	[ファイル](文化功労者表彰など)				1冊(20枚、表紙含む)		
Ⅲ	4	5-1	[封筒]					文部省の封筒。鉛筆書きで「三八年一月四日文化功労者として顕彰」と記されている。	ファイル4ページ。
Ⅲ	4	5-2	[封筒のコピー]				3枚(同一物)	封筒の差出人(正道、姓不明)の住所が書かれている部分をコピーしたもの。詳細不明。	ファイル5ページに1枚、17ページに2枚。
Ⅲ	4	5-3	昭和三十八年度文化功労者名簿	昭和38年	(文部省)		1枚	昭和38年度の文化功労者10名の名を記したもの。	ファイル6ページ。
Ⅲ	4	5-4	大臣招待宴会場見取図	(昭和38年11月か)	(文部省)		1枚	文化功労者顕彰式の後に関われる晩餐会会場の席順を記したもの。	ファイル7ページ。
Ⅲ	4	5-5	[書簡]	昭和38年10月22日	文部事務次官内藤譽三郎/ 文部省大臣官房人事課長安達健二	原龍三郎	4枚	文化功労者顕彰式に関する通知と、文化功労者年金給付手続きに関する通知。別紙に出欠確認用の書類と、年金受取郵便局指定のための書類。	ファイル8、9ページ。

請求記号			表題	作成年代	作成者	受取	形態(数量)	概要	備考
Ⅲ	4	5-6	[書簡]	昭和39年 3月27日	文部省大臣官 房人事課長 安達健二	原龍三郎	3枚	法改正に伴い文化功労者年金の受取額が増加したことの通知、文化功労者年金受給者への注意書、文化功労者年金証書紛失の際の紛失届。	ファイル10ページ。
Ⅲ	4	5-7	文化功労者顕彰式行事	(昭和38年11月か)	(文部省)		3枚	文化功労者顕彰式の式次第、式場見取り図、記念撮影席見取り図。	ファイル11ページ。
Ⅲ	4	5-8	佩用心得		賞勳局		1枚	勲章受章者の心得についてまとめたもの。	ファイル13ページ。
Ⅲ	4	5-9	[書簡]	昭和38年 10月31日	文部省大臣官 房人事課長 安達健二	原龍三郎	2枚	文化功労者顕彰式の後に開かれる晩餐会会場のホテルの入り口についての指示と地図。	ファイル14ページ。
Ⅲ	4	5-10	表彰状	昭和20年9月1日	東北帝国大学 総長 熊谷岱蔵	原龍三郎	1枚	仙台空襲に際し大学の防護につとめた原に対し、総長熊谷岱蔵から出されたもの。	ファイル15～16ページ。
5 各種書類									
Ⅲ	5	1	特許願/明細書	大正8年7月7日	原龍三郎	特許局長	9枚綴+1枚	青化物合成法に関する特許を申請するために作成されたもの。本来別紙である特許願と発明の詳細を記した明細書を一綴りにしてある。間に書類内容の訂正事項を記したメモ1枚挿む。	元は「C」に保存。
Ⅲ	5	2	〔はがき〕願書番号通知書	大正8年7月12日	特許局長 中 井勵作	原龍三郎	1通	同月7日付で原が提出した特許願に第48071号の願書番号を付すことを通知す	元は「C」に保存。
Ⅲ	5	3	〔特許庁通達〕	大正8年9月13日	特許局長 中 井勵作	原龍三郎	1枚	特許願48071号に関して、訂正証明書を期日まで提出すべき旨を記す。	元は「C」に保存。
Ⅲ	5	4	〔はがき〕	大正8年10月27日	特許局長 中 井勵作	原龍三郎	1通	特許願48072号に関して、訂正証明書の提出期日延長請求を受諾した旨を記す。	元は「C」に保存。
Ⅲ	5	5	昭和12年度学術部行事予定	昭和11年12月	日本学術振興 会学術部	常任委員	4枚綴	翌年1月から12月までの昭和12年度学術部の行事予定。および学術部委員総会開催の通知。「学委雑第36号」の番号がふられている。	元は「C」に保存。
Ⅲ	5	6	〔委嘱書〕	昭和12年1月1日	日本学術振興 会会長 廣田 弘毅/日本学 術振興会理事 長 櫻井錠二	原龍三郎	2枚	原を日本学術振興会学術部第五常置委員会委員に委嘱する旨を記したものの。	



請求記号			表題	作成年代	作成者	受取	形態(数量)	概要	備考
Ⅲ	5	7	常置委員長会議 第20回会議記事	昭和12年1月か	日本学術振興会学術部長岡半太郎			同年1月21日に開催された常置委員長会議の内容を記す。主な議題は学術振興具休案の改定、新特別及小委員会設置、12年度希望予算など。	元は「C」に保存。
Ⅲ	5	8	昭和15年度科学研究調査要項	昭和15年			2枚綴	昭和15年度の「非水溶液ノ化学及其工業的応用性」の科学研究費に関する書類。研究者名、研究の方法、研究機関、研究費などを記す。	元は「C」に保存。
Ⅲ	5	9	昭和17年度科学研究調査事項	昭和17年			2枚綴	昭和17年度の「非水溶液ノ化学及其工業的応用性」の科学研究費に関する書類。研究者名、研究要旨、研究機関、研究費などを記す。	元は「C」に保存。
Ⅲ	5	10	昭和18年度 文部省科学研究費ニヨリ研究セントスル題目調書(控)	昭和17年9月21日	東北帝国大学工学部化学工学科		1枚	文部省科学研究費による研究の題目や目的、特徴などを記す。研究題目は「非水溶液ノ化学及其工業的応用性」。原ら6名の研究者の名がある。	元は「C」に保存。
Ⅲ	5	11	非水溶液化学研究所説明書	昭和20年9月7日			4枚綴×4組	非水溶液研究所において行われている研究、戦前の非水溶液化学の様相、太平洋戦争勃発から終戦までに至る研究所のいきさつなどを記す。白紙に印字されたものが2組、東北帝国大学のタイプライター用紙に印字されたものが1組(墨による汚れあり)、後年のコピーと思われるものが1組(ホチキス止め)。細部に違いはあるものの文面はほぼ同じ。	4組一括でクリアファイル入り。元は「C」にクリアファイルごと保存。
Ⅲ	5	12-1	連合軍司令部発日本政府宛一月四日附覚書	昭和21年	(GHQ)		1部(12ページ)	GHQより出された、軍国主義者などを公職から追放するよう命じる覚書。廃止となる対象団体や、追放される対象者などを細かく指定している。また、公職者に対し、前歴などを記した書類の提出を命じている。鉛筆書きで「昭和二一年二月十七日受」とあり。	ビニール袋で一括保存。元は「C」にビニール袋ごと保存。

請求記号			表題	作成年代	作成者	受取	形態(数量)	概要	備考
Ⅲ	5	12-2	附属書B号	昭和21年	原龍三郎		3枚綴	「联合国総司令部発日本政府宛一月四日附覚書」をうけて作成された書類の下書きか。原の個人事項、団体所属歴、勤務記録などを記す。諸所に推敲の形跡あり。	
Ⅲ	5	13-1	科学者調査	昭和21年5月	原龍三郎		4枚綴+1枚+2枚綴	GHQ主導のもとに行われた、科学者の来歴などの調査に関する提出書類の自控え。提出書類の詳細のメモ・自控え書類(和文)・自控え書類(英文)の4枚綴、自控え書類(和文)単独1枚、自控え書類(英文)2枚綴。	元は「C」に保存。
Ⅲ	5	13-2	回答	昭和21年7月13日	原龍三郎	工学部庶務係	1枚	昭和20年10月より病氣療養しているため、提出書類に該当する書類が無いことを記す。科学者調査に関するものか。後半にこれと同内容の英文あり。	
Ⅲ	5	14-1	功績調書(コピー)	(昭和39年以降)			5枚綴	原の功績を綴ったもの。原文書のコピーか。作成目的などは不明。	元は「A」に保存。
Ⅲ	5	14-2	履歴書(コピー)	(昭和39年以降)			6枚綴	原の履歴書のコピー。	元は「A」に保存。
6 その他									
Ⅲ	6	1	[雑誌]KALI Heft13	1922(大正11)年7月1日	Verein der Deutschen Kaliinteressenten		1部(40ページ)	ドイツの学術雑誌。表紙に原の印あり。	
Ⅲ	6	2	[雑誌]KALI Heft16	1922(大正11)年8月15日	Verein der Deutschen Kaliinteressenten		1部(32ページ)+3枚	ドイツの学術雑誌。表紙に原の印あり。間に広告など3枚挿む。	
Ⅲ	6	3	[ノート]	明治43年ほか	原龍三郎か		1冊(654ページ)	原が学生時代に筆記した複数の講義ノート(数学関係)を、後年まとめて製本したものか。	
Ⅲ	6	4	[ノート]抜萃帖 Vol. I	昭和6~7年ごろか	原龍三郎		1冊(64枚、表紙含む)	本などの内容を抜萃したノート。途中で新聞記事の切り抜きの貼付あり。	
Ⅲ	6	5	[ノート]memo NO. II	1934(昭和9)年12月~	原龍三郎		1冊(57枚、表紙含む)	本などの内容を抜萃したノート。途中で新聞記事の切り抜きの貼付あり。	
Ⅲ	6	6	[ノート]雑記	昭和10~39年	原龍三郎		1冊(49枚、表紙含む)	冒頭部分は満州における塩田について記されており、それ以下は新聞記事の内容などのメモ。新聞記事のスクラップの貼り付け数点あり。	

請求記号		表題	作成年代	作成者	受取	形態(数量)	概要	備考
Ⅲ	6	7 [写真]	1919(大正8)年			3枚(一括封筒入り)	太平洋航行中の香取丸の船内で撮られた写真。原ら乗客の姿が写されている。	元は「A」に保存。
Ⅲ	6	8 [写真]原先生を囲んで	昭和25年3月28日			1枚	原への寄せ書きを写した写真を台紙に貼り付けたもの。	
Ⅲ	6	9 [写真]大学時代				1枚+ネガ1シート	原の東北帝国大学教授時代の写真とそのネガ。写真の裏側に原の名刺が貼り付けてある。	
Ⅲ	6	10 [写真]				1枚	原を写した写真。	
Ⅲ	6	11 [写真]				1枚	原と夫人と他1人の人物を写した写真。	
Ⅲ	6	12 [スケッチブック]	昭和12年	原龍三郎か		1冊(25枚、表紙含む)+スクラップ1枚+書3	植物や風景などのスケッチ。日本読書新聞の切り抜きと、原の手によるものと思われる書3枚挿む。	
Ⅲ	6	13 [記事抜刷]原竜三郎先生のご近況	1963(昭和38)年	佐藤正行		1部(4ページ)	『化学と工業』第17巻第1号に掲載された記事の抜刷。文化功労章受章直後の原のもとを記者が訪れている。	元は「A」に保存。
Ⅲ	6	14 九葉会々報 第三十六号(復刊第一九号)原龍三郎先生追悼号	昭和46年	九葉会		1部(74ページ)	東北大学工学部化学・バイオ工学科(現)同窓会の同窓会誌。原の死から2年後に発刊。原との思いでを綴った文章および原の業績一覧を掲載。表紙に新井・熊谷の印あり。	
Ⅲ	6	15 創立30周年記念事業報告	昭和49年12月	東北大学非水溶液科学研究所創立30周年記念会		2部(同一物、14枚、表紙含む)	東北大学非水溶液科学研究所創立30周年記念事業についての報告書。ご挨拶/経過報告/創立30周年記念会会規/寄付者ご芳名/記念事業/記念行事/研究会発表とOB会/会計報告/実行委員会委員	
Ⅲ	6	16 富士植物絵葉書		富士植物研究会		葉書5枚+正誤表1枚+袋	植物の写真を載せた絵葉書。しゃくなげ・むらさきもめんづる・ふじはたざほ・おんたで・つばめもとの5枚。袋に付せられた付箋に「原先生遺品」とあり。	
Ⅲ	6	17 原先生杯				1個(箱入)		
Ⅲ	6	18 油絵時計保証書	昭和57年1月12日	阪急百貨店		1枚(封筒入)	手作り時計「Hobby clock(アイセキ製)」の保証書。非水溶液化学研究所の封筒入り。「戸倉先生寄贈」と記入あり。詳細不明。	